# 医療安全管理部

## 1.　スタッフ構成(2025 年 3 月時点)

○山本　英一;医療安全管理部長
○近藤　裕司;医療安全管理副部長
○松尾　有記;チーフリスクマネジャー
＜構成員＞
○医師 2 名、看護師 5 名、薬剤師 1 名、臨床検査技師 1 名、臨床工学技士 1 名、診療放射線技師 2 名、管理栄養士 1 名、理学療法士 1 名、事務局 4 名、愛媛ホスピタルパートナーズ 2 名

## 2.　運営方針

医療における安全の確保は、医療を提供する者にとっての最重要課題で、当院では基本方針に医療の安全を揚げています。

医療安全対策管理委員会の方針に基づいて、院内の安全管理を組織横断的に担う実働部隊として医療安全管理部を設置し、各部門の医療安全担当者とともに組織的な活動に取り組んでいます。

2024 年はすべての病棟で身体拘束の最小化が義務化されることから、離床サポートチームを身体拘束最小化チームに名称変更し、身体拘束に関する体制整備と転倒転落の低減、前年より継続して患者誤認の低減とインシデント報告件数 3,000 件以上の目標で活動しました。

## 3.　実績

(1)　身体拘束最小化に関する体制の整備と周知

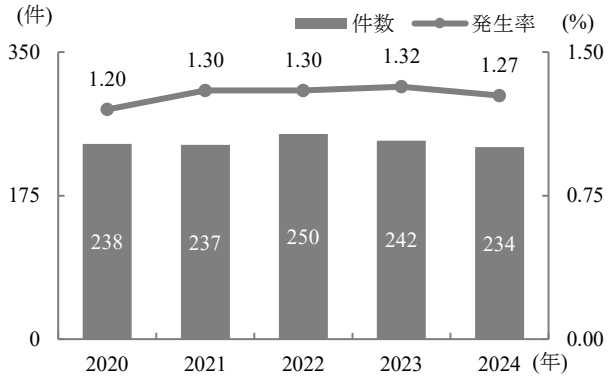
①　身体拘束最小化のための指針作成
②　身体拘束最小化にする取り組み強化に向けた Web 研修とテスト(全職員対象、テスト 100 点、受講率 100%)
③　院内全体と各部署の身体拘束割合を定期的に提示
④　院内ラウンドの実施と予防対策の検討
⑤　安全対策カンファレンステンプレートの作成

身体拘束最小化チームが中心となり、身体拘束最小化に関する指針の作成と医療安全対策マニュアルの抑制項目の内容を変更し、ルールを整備しました。また、身体拘束は緊急やむを得ない場合以外禁止であること、多面的視点で患者を捉えるために他職種カンファレンスが重要であることを Web 研修や院内配信で繰り返し伝えました。拘束された事例の院内ラウンドを実施(2 事例/月)し、部署とともに身体拘束しない対策を検討し、フィードバックしました。身体拘束の割合は全年齢では平均 8.0%と横ばいで、重症系や特定の部署での抑制率は 10～30%と高い状況が続いています。身体拘束しない取り組み強化を今後も継続していきます。

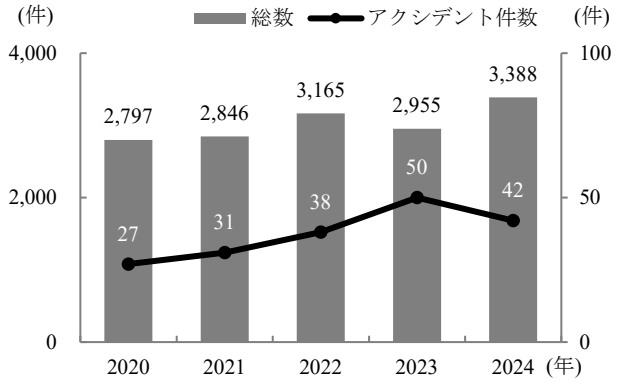
(2)　有害事象の転倒・転落の低減を図る

転倒・転落発生数は 234 件、発生率は 1.27%、転倒転落でのアクシデント発生率は 0.04%と横ばいで推移していました。身体拘束最小化チームで転倒転落事例について、看護記録チェックリストと環境ラウンドで現状を評価し、部署にフィードバックしました。また、転倒防止のためにジョイントマットを活用することや危険な環境を院内配信することで、転倒転落防止の注意喚起を行いました。環境ラウンド結果を全体配信することは転倒転落防止に繋がるため、引き続き、部署と連携し、定期的な環境ラウンドを実施していきます。

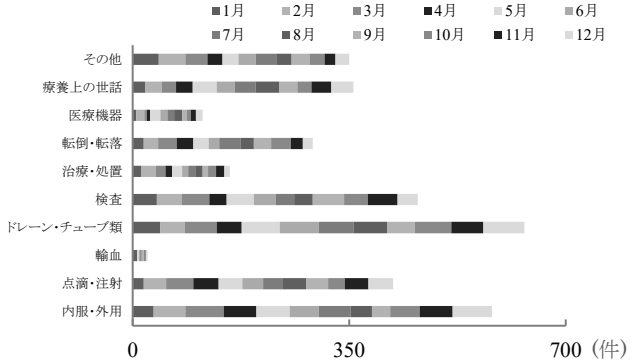
■ 転倒・転落件数および発生率



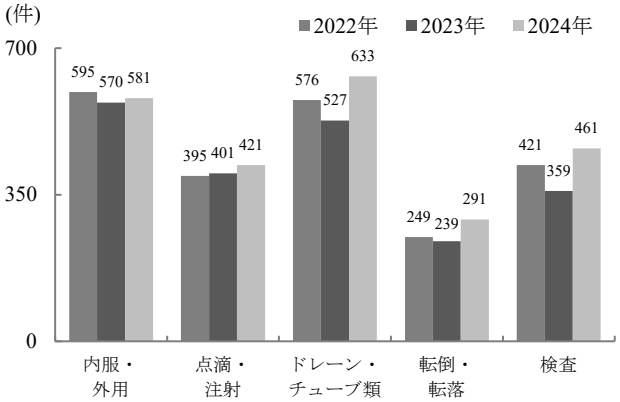

■インシデント・アクシデント報告件数




■ 概要別インシデント報告

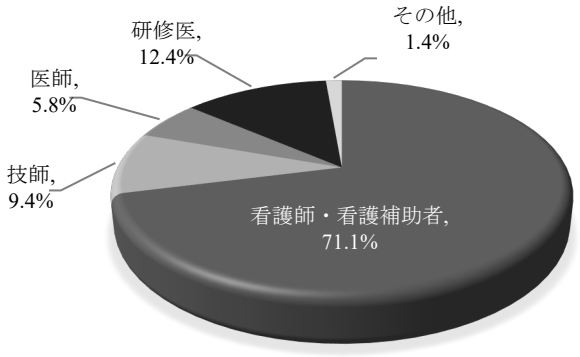



■インシデント発生上位 5 項目



■ 職種別報告件数

| 職種 | 件数 | 職種 | 件数 |
|---|---|---|---|
| 看護師・看護補助者 | 2,406 | 臨床工学技士 | 16 |
| 医師 | 198 | 臨時職員 | 5 |
| 診療放射線技師 | 208 | 理学療法士 | 6 |
| 薬剤師 | 73 | 管理栄養士 | 9 |
| 研修医 | 419 | 作業療法士 | 2 |
| SPC 職員 | 16 | 言語聴覚士 | 1 |
| 臨床検査技師 | 27 | | |




(3)　インンシデント報告件数について

インシデント報告 3,000 件を目標に掲げ、0 レベル報告、他職種からの報告、同一事案に関する報告も含め、3,388 件の報告があり、前年より 433 件増加しました。0 レベル報告件数は 76 件増加し、アクシデント報告件数は 8 件減少していました。報告件数の多い内容については、テンプレートを作成することで報告することの負担軽減を図りました。また、看護師のインシデント報告内容によっては、医療安全管理部と連携し、医師への報告を実施しました。まだまだ積極的な報告とは言い難いですが、少しずつ件数は増加傾向にあります。患者誤認ではフルネームと生年月日で患者確認することを周知していましたが、書類の渡し間違いやカルテ選択間違いなどが多く発生していました。患者確認方法、書類確認方法の徹底を継続していきます。

■ 医療安全研修会

| 開催日 | 研修名(テーマ) | 対象 | 参加 |
|---|---|---|---|
| 4 月 2 日 | 転入・新規採用職員オリエンテーション研修<br>令和 6 年度新規採用職員研修　医療安全管理<br>チーフリスクマネジャー　松尾有記 | 4 月新規採用者、研修医、<br>新規採用看護職員、<br>メディカルスタッフ | 医師:60 名、看護師:80 名、<br>メディカルスタッフ:35 名 |
| 4 月 5 日 | 看護補助者研修<br>「医療安全の基礎知識」<br>チーフリスクマネジャー　松尾有記 | 夜間看護補助者<br>(講師、担当者含む) | 4 名 |
| 4 月 19 日 | 新規採用看護職員第II期研修<br>移動援助技術と転倒予防<br>離床サポートチーム<br>リハビリ部門:佐竹敬太、青木卓也、清水麻美<br>看護部門:チーフリスクマネジャー　松尾有記、<br>河野美晴、平田由香理、田村留美、古本奈緒美、<br>玉利未来、三品聡子、坂東さやか | 新規採用看護師、既卒、<br>臨床工学技士<br>(講師、担当者含む) | 78 名 |
| 4 月 26 日 | 新規採用看護職員第II期研修<br>安全確保の技術(患者誤認防止)<br>医療安全推進チーム　濵田季美、<br>チーフリスクマネジャー　松尾有記 | 新規採用看護師、既卒、<br>臨床工学技士<br>(講師、担当者含む) | 73 名 |
| 5 月 8 日 | 新規採用看護職員第II期研修<br>薬剤関連リスク　安全な与薬のために<br>チーフリスクマネジャー　松尾有記 | 新規採用看護師、既卒<br>(講師、担当者含む) | 68 名 |
| 7 月 1 日～<br>8 月 20 日 | (e-learning)医療安全必須研修<br>事例・動画講義シリーズ<br>「外来での患者取り違えによる誤注射」<br>「電話での不十分な意思疎通による配膳ミス」<br>「患者確認と指差呼称」 | 医師、看護師、メディカルスタッフ | 1,543 名 |
| 7 月 9 日(3 回)<br>7 月 19 日(3 回) | (集合研修)(e-learning)医療安全必須研修<br>事例・動画講義シリーズ<br>「外来での患者取り違えによる誤注射」<br>「電話での不十分な意思疎通による配膳ミス」<br>「患者確認と指差呼称」 | 愛媛ホスピタルパートナーズ、<br>協力企業 | 114 名<br>93 名 |
| 9 月 19 日<br>(午前・午後) | 看護補助者研修<br>「医療安全の基本的な考え方、患者誤認防止、守秘義務・<br>個人情報の管理」<br>チーフリスクマネジャー　松尾有記 | 看護補助者<br>(講師、担当者含む) | 76 名 |
| 10 月 1 日～<br>12 月 2 日 | (e-learning)医療安全必須研修<br>事例・動画講義シリーズ<br>「医療安全の基本を知る①安全を優先させる」<br>「入院中に発生した転倒」 | 医師、看護師、<br>メディカルスタッフ | 1,556 名 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 10 月 4 日 | 研修医研修<br>「インシデントレポートフィードバック」<br>チーフリスクマネジャー　松尾有記 | 研修医(講師含む) | 15 名 |
| 10 月 9 日 | 新規採用看護職員第III期研修<br>「危険予知」振り返り<br>チーフリスクマネジャー　松尾有記 | 新規採用看護師<br>(講師、担当者含む) | 65 名 |
| 10 月 18 日(3 回)<br>10 月 30 日(3 回) | (集合研修)(e-learning)医療安全必須研修<br>事例・動画講義シリーズ<br>「医療安全の基本を知る①安全を優先させる」<br>「入院中に発生した転倒」 | 愛媛ホスピタルパートナーズ、<br>協力企業 | 117 名<br>86 名 |
| 2 月 7 日 | 愛媛県立 4 病院　放射線部医療安全部会<br>「インシデントレポート提出後の活用」<br>チーフリスクマネジャー　松尾有記 | メディカルスタッフ、<br>県庁事務局(講師含む) | 28 名 |
| 3 月 14 日 | 研修医研修<br>「インシデント報告について」<br>チーフリスクマネジャー　松尾有記 | 研修医(講師含む) | 10 名 |

■ トピックス研修会

| 開催日 | 研修名 | 対象 | 参加 |
|---|---|---|---|
| 6 月 13 日 | 医療安全研修<br>テーマ「医療ガスの安全管理について」<br>講師：株式会社エフエスユニ　古川莉菜 | 全職種 | 医師：2 名、看護師：30 名、<br>メディカルスタッフ：14 名、<br>愛媛ホスピタルパートナーズ、<br>協力企業：8 名 |
| 9 月 3 日 | 医療安全研修<br>テーマ「覚えて欲しい　画像センター3 つの説/リブレ・造影剤注入・MRI」<br>講師：診療放射線技師　宇都宮慎一、曽我部翔 | 全職種 | 医師：7 名、看護師：54 名、<br>メディカルスタッフ：33 名、<br>愛媛ホスピタルパートナーズ：3 名 |
| 10 月 29 日 | 医療安全研修<br>テーマ「医療機器　輸液ポンプ・シリンジポンプ」<br>講師：メディエス　井上克輝、臨床工学技士　桑尾芽依 | 全職種 | 医師：3 名、看護師：25 名、<br>メディカルスタッフ：15 名、<br>愛媛ホスピタルパートナーズ、<br>協力企業：6 名 |
| 11 月 26 日 | 医療安全研修<br>テーマ「検体容器と検体の取り扱い」<br>講師：臨床検査技師　椿野圭亮、本宮健太郎 | 全職種 | 医師：1 名、看護師：40 名、<br>メディカルスタッフ：20 名、<br>愛媛ホスピタルパートナーズ、<br>協力企業：2 名 |
| 1 月 7 日～<br>2 月 28 日 | (e-learning)医療安全研修(中央病院版)<br>テーマ①「放射線診療に従事する者に対する診療用放射線の安全利用のための放射線研修」<br>テーマ②「MRI」 | 関係職員 | ①医師：241 名、看護師他：857 名、<br>放射線部：51 名、臨床工学技士：27 名<br>②医師：241 名、看護師他：857 名、<br>放射線部：51 名、臨床工学技士：27 名 |
| 1 月 23 日 | 医療安全研修<br>テーマ「医薬品の安全な取り扱いについて/麻薬の取り扱いについて」<br>講師：薬剤師　玉井宏一、越智啓介 | 全職種 | 医師：5 名、看護師：41 名、<br>メディカルスタッフ：6 名、<br>愛媛ホスピタルパートナーズ、<br>協力企業：4 名 |

## 4.　2025 年度目標

超高齢化社会となり、高齢者、つまりフレイル状態で日常生活を送られている方が外来受診や入院されており、転倒転落は高止まりしています。患者さんや環境・モノに関わる因子を多面的に捉え、対策を講じるにはチームで介入すること不可欠です。予防対策の強化とともに身体拘束しない取り組み、確認の正しい方法を周知徹底、薬剤インシデントの低減、患者間違いを 0 に近づけることが課題と考えます。